

令和7年度

# 学校評価



春日井市立知多中学校

1. 令和7年度「学校評価に関するアンケート」結果考察

P 2 ~ 3

○ はじめに

(1) 授業

(2) 生徒指導

(3) 生徒理解

(4) 道徳教育

(5) 特別活動

(6) 学校行事・学年行事・個人懇談会等

(7) 保護者や地域との連携

2. 「学校評価に関するアンケート」(教職員)結果

P 4

3. 「学校評価に関するアンケート」(保護者)結果

P 5 ~ 6

4. 知多中学校をよりよくするために

P 6 ~ 7

## Ⅰ. 令和7年度「学校評価に関するアンケート」結果考察

### ○ はじめに

今回のアンケートは、文部科学省「学校評価ガイドライン」(平成28年度改訂版)にて整理された3つの形態のうちの「各学校の教職員が行う評価」(自己評価)と「保護者が行う評価」(学校関係者評価)の2つについての考察である。

#### (1) 授業

「教師同士で学び合いながら授業改善に取り組んでいる」という項目については、93%の教職員が「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的に回答している(教職員用アンケート1)。これは「一人一授業公開」をはじめ、組織的な授業改善の文化が定着し、教職員が授業力向上に努めているという成果を示している。一方、保護者アンケートでは「本校の教職員は、お子さんの理解度を確認しながら授業を進めている」という項目に肯定的に回答している保護者は78%であった(保護者アンケート9)。

先の93%という数値と比較すると、15%の差が見られる。この差は、本校教員の授業改善に向けた努力が、全ての生徒の状況に合わせた「きめ細かな指導(個別最適な学び)」の実践につながり切れていない可能性があることを示唆している。今後も、生徒一人一人が「分かった」「できた」と実感できる授業づくりに、粘り強く邁進していきたい。

「授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れ、生徒の主体的な学びを促している」の項目には、96%の教職員が肯定的に回答している(教職員用アンケート3)。これは、教職員間で生徒同士の学び合いが重要な指導観として広く共有され、具体的な授業実践としてしっかり定着していることの表れであることを示している。

また「本校は、タブレット端末を効果的に活用し、工夫して授業を行っている」という項目では、88%の保護者から肯定的な回答が得られている(保護者アンケート17)。このアンケート結果から、授業におけるタブレット端末の活用が、教科を問わず浸透している実態が明らかになった。今後も、先進校の実践を継続的に調査・研究し、より効果的なタブレットの活用に向けた指導法の研究を進めていきたい。

#### (2) 生徒指導

「生徒の問題行動が起こったとき、組織的に対応できている」という項目に、全ての教職員が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している(教職員用アンケート10)。

一方、「生徒の問題行動が起こったとき、組織的に対応できる体制が整っている」という項目について肯定的に回答している保護者は84%であった(保護者用アンケート14)。この16%の差を埋めるために、保護者の皆様への情報提供や説明を丁寧に行っていきたい。

#### (3) 生徒理解

「生徒の些細な変化などを見逃さないように、心の天気など客観的な資料をもとに早期発見・早期対応に努めている」という項目に対し、93%の教職員から肯定的な回答を得ている(教職員用アンケート9)。

この結果は、担任や学年職員による「些細な変化を見逃さないきめ細かなアプローチ」や「生徒一人一人と真摯に向き合ってきた姿勢」が成果として表れたものと考えられる。

また、「お子さんが困ったときに相談できる友達や教職員がいる」という項目で、88%の保護者から肯

定的な回答が得られている(保護者アンケート2)。

生徒が困ったときに、相談できる人間関係が築けるよう、個々の生徒に寄り添うとともに、居心地の良い環境づくりに努めていきたい。

#### (4) 道徳教育

「『考える道徳』『議論する道徳』の授業が展開できている」という項目について 85%の教職員が肯定的に回答している(教職員用アンケート4)。

また「道徳の時間で学んだことを生徒が実践できるように心がけている」という項目についても 81%の教職員から肯定的な回答を得ている(教職員用アンケート5)。

これらの結果は、研究推進校での知見を参考に、全教職員で組織的に授業改善に取り組んできた成果である。今後も継続的な研究に取り組み、「考え、議論する道徳」のさらなる定着と質の向上に努めたい。

#### (5) 特別活動

「『チータイム(SST・SGE)』で生徒のコミュニケーション力が育まれるよう、活動のめあて・展開・振り返りを工夫している」という項目について93%の教職員が肯定的に回答している(教職員用アンケート7)。

また「本校は『チータイム』をはじめ、生徒が人間関係を築くために必要なスキルを身に付けるよう努めている」という項目について、92%の保護者が肯定的に回答している。(保護者用アンケート12)。今後も、生徒間の対人関係を円滑にし、自己理解や自尊感情の育成、良好な集団づくりを目指して、教職員共通理解のもと、「チータイム(SST・SGE)」の実施に努めたい。

#### (6) 学校行事・学年行事・個人懇談会等

「授業参観(体育祭・文化祭含む)や個人懇談会は、お子さんや学校を理解する場になっている」と肯定的に回答している保護者は95%であった(保護者用アンケート18)。今年度も、多くの保護者にご参加いただき、本校の教育活動に対し、深いご理解をお寄せいただくことができた。この高い評価を維持しつつ、今後は個人懇談や授業参観等において、お子様の学校生活がより明確に伝わる場となるよう、さらなる改善に努めたい。

#### (7) 保護者や地域との連携

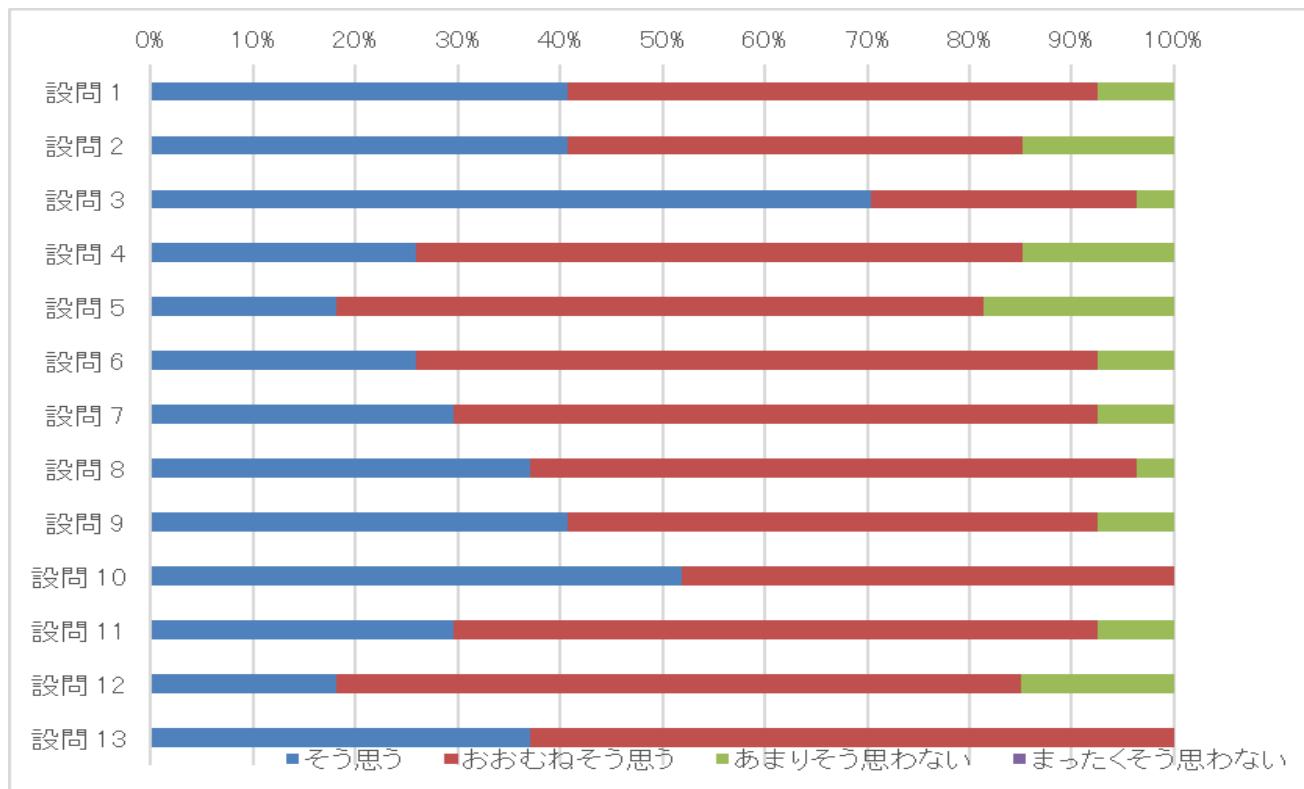
「本校は、ホームページや通信などで、学校の様子などを分かりやすく伝えている」という項目について、89%の保護者が肯定的に回答している(保護者用アンケート19)。

また「本校の教職員は、保護者の皆さんに対して誠意をもって接している」という項目についても「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している保護者は96%であった(保護者用アンケート20)。

今後も、本校と家庭・地域との強固な信頼関係の搖るぎない基盤を築けるよう、努めたい。

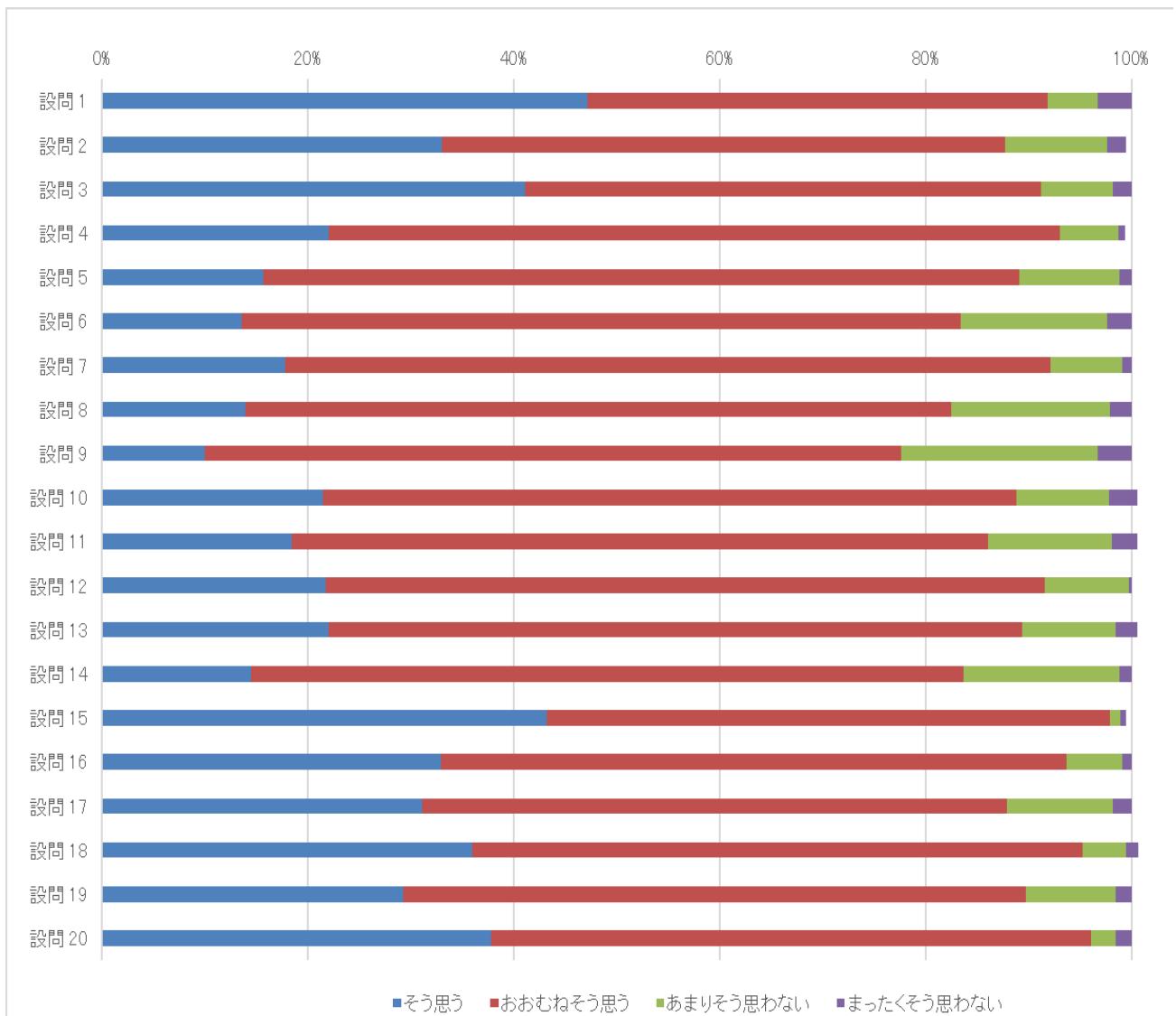
## 2. 「学校評価に関するアンケート」(教職員)結果 ※教職員 27 名回答

設問番号	質問内容		そう思う	おおむねそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1	教師同士で学び合いながら授業改善に取り組んでいる。	設問 1	41%	52%	7%	0%
2	一人一台端末を効果的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っている。	設問 2	41%	44%	15%	0%
3	授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れ、生徒の主体的な学びを促している。	設問 3	70%	26%	4%	0%
4	「考える道徳」「議論する道徳」の授業が展開できている。	設問 4	26%	59%	15%	0%
5	道徳の時間で学んだことを生徒が実践できるように心がけている。	設問 5	18%	63%	19%	0%
6	教職員共通理解のもと「チータイム(SST・SGE)」が実施されている。	設問 6	26%	67%	7%	0%
7	「チータイム(SST・SGE)」で生徒のコミュニケーション力が育まれるよう、活動のめあて・展開・振り返りを工夫している。	設問 7	30%	63%	7%	0%
8	一人一人の個性の理解ときめ細かな情報交流を通して、生徒の成長を支援するための合理的な配慮を行いつつ、心に寄り添った指導に努めている。	設問 8	37%	59%	4%	0%
9	生徒の些細な変化などを見逃さないように、心の天気など客観的な資料をもとに早期発見・早期対応に努めている。	設問 9	41%	52%	7%	0%
10	生徒の問題行動が起こったとき、組織的に対応できている。	設問 10	52%	48%	0%	0%
11	生徒の健康を守るための研修を行い、予防策と緊急時の対応に努めている。	設問 11	30%	63%	7%	0%
12	生徒の安全を守るための防犯・防災対策、施設の安全管理などを適切に行っている。	設問 12	18%	67%	15%	0%
13	保護者や地域に、学校の様子や教育情報を分かりやすく発信している。	設問 13	37%	63%	0%	0%



3. 「学校評価に関するアンケート」(保護者)結果 ※保護者331名回答

設問番号	質問内容		そう思う	おおむねそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1	お子さんは、学校に楽しく通っている。	設問 1	47%	45%	5%	3%
2	お子さんが困ったときに相談できる友達や教職員がいる。	設問 2	33%	55%	10%	2%
3	お子さんは、友達との好ましい人間関係づくりができている。	設問 3	41%	50%	7%	2%
4	本校の生徒は、基本的な生活習慣が身に付いている。	設問 4	22%	71%	6%	1%
5	本校の生徒は、困ったときには、まずは自分なりに解決方法を考え、解決に向けて行動することができている。	設問 5	16%	73%	10%	1%
6	本校の生徒は、学習に意欲的に取り組んでいる。	設問 6	14%	70%	14%	2%
7	本校の生徒は、お互いの気持ちを大切にしている。	設問 7	18%	74%	7%	1%
8	本校の教室環境(学習・生活環境)は、整っている。	設問 8	14%	69%	15%	2%
9	本校の教職員は、お子さんの理解度を確認しながら授業を進めている。	設問 9	10%	68%	19%	3%
10	本校の教職員は、グループワークや話し合い活動などを取り入れ、お子さんの主体的な学びを促している。	設問 10	21%	67%	9%	3%
11	本校の教職員は、一人一人のよさを認めるとともに、心の居場所づくりに努めている。	設問 11	18%	68%	12%	2%
12	本校は「チータイム」をはじめ、生徒が人間関係を築くために必要なスキルを身に付けるよう努めている。	設問 12	22%	70%	8%	0%
13	本校の教職員は、生徒のことを理解しようと努めている。	設問 13	22%	67%	9%	2%
14	生徒の問題行動が起ったとき、組織的に対応できる体制が整っている。	設問 14	15%	69%	15%	1%
15	本校は、食物アレルギー対応や施設安全管理、緊急時の対応など、健康・安全を第一として取り組んでいる。	設問 15	43%	55%	1%	1%
16	本校は「あいさつ」を大切にし、その場に応じた言葉遣いができる生徒の育成に心がけている。	設問 16	33%	61%	5%	1%
17	本校は、タブレット端末を効果的に活用し、工夫して授業を行っている。	設問 17	31%	57%	10%	2%
18	授業参観(体育祭・文化祭含む)や個人懇談会は、お子さんや学校を理解する場になっている。	設問 18	36%	59%	4%	1%
19	本校は、ホームページや通信などで、学校の様子などを分かりやすく伝えている。	設問 19	29%	60%	9%	2%
20	本校の教職員は、保護者の皆さんに対して誠意をもって接している。	設問 20	38%	58%	2%	2%



#### 4. 知多中学校をよりよくするために

保護者アンケートから、多くの保護者が「お子さんは、学校に楽しく通っている」「お子さんは友達との好ましい人間関係づくりができている」の項目に対して、肯定的に捉えていることが分かる（保護者アンケート1、3）。また、学習面でも「本校の生徒は学習に意欲的に取り組んでいる」と、84%の保護者が肯定的に回答している。さらに、「本校の教職員は、一人一人のよさを認めるとともに、心の居場所づくりに努めている」においても、86%の保護者が肯定的に回答している（保護者アンケート11）。その一方で、言葉のトラブルや居場所を失い、孤立するといった課題は依然として残っている。これらを解決するために「言葉の力」「対話的な授業」「多様な価値観」という3つの柱を立て、生徒の「対話力」を多角的に育んでいきたい。

1つ目の柱「言葉の力」においては、外部講師を招聘し、道徳の授業の充実を図り、相手を尊重しながら対話する力を養いたい。

2つ目の柱「対話的な授業」においては、外部講師を招聘し、教員向けの研修を定期的に実施し、生徒の関わる力を育む授業や、主体的に深く学び合う授業づくりを組織的に展開していきたい。

3つ目の柱「多様な価値観」においては、『あすチャレスクール』『職場体験学習』『行政企画訪問』

などの機会を設け、自己を客観的に見つめ、他者とよりよく生きる力を養いたい。さらに、以上の3つの柱を支える土台となるチータイムを継続的に進め、生徒のコミュニケーションスキルの育成を図っていきたい。